

Adobe Sparkの無料提供を通し GIGAスクール構想と教育ICT化を支援

「次世代の『創造的問題解決能力』を育むGIGAスクール構想の実現を
アドビは積極的に支援しています」

デジタルイノベーションマーケティング本部（教育市場部・Document Cloudマーケティング部） 本部長 小池 晴子

アドビの実践

Adobe Spark を教育機関向けに無料提供

本記事のポイント

GIGAスクール構想で進む 教育のICT化



GIGAスクール構想により、教育ICT化の
基盤となる1人1台のPC環境が実現

実社会で使われるツールが 子どもたちの発想を伸ばす



機能の制約で、子どものアイデアやつく
りたいものの幅を狭めることがない

Adobe Sparkを 教育機関向け無料提供



教育ICT化の一環として、クリエイティブ
な表現制作活動のツールを無料提供

社会とつながる 学びのきっかけを提供



GIGAデバイスでAdobe Sparkを活用する
機会としてSDGsアイデアコンテストを開催



デジタルイノベーションマーケティング
本部（教育市場部・Document Cloud
マーケティング部） 本部長
小池 晴子

コロナ禍を受け、3年計画が1年での達成に前倒しされたGIGAスクール構想は、2020年度末時点で全国の小中学生ほぼ全員への1人1台端末配付の目途が立ちました。次のステップとして2021年度に重要なことが、1人1台を前提としたより効果的な教育ICT化の実践です。アドビでは2020年度から継続的にクリエイティブな学びを支える全く新しいビジュアルプレゼンテーションツールのAdobe Spark for Educationの無料提供と、教育委員会や学校向けへの導入研修などを進めてきました。2021年度はさらに「GIGAスクールデバイス活用元年」の支援の位置づけで、GIGAスクールデバイスでAdobe Sparkを使って、SDGs達成のためのアイデア作品を募るコンテストを開催しています。

創造的問題解決能力の育成にも大きな意味を持つ教育のICT化

世界経済フォーラムの『仕事の未来レポート2020』は、デジタル化の進展で定型的な作業の機械やAIによる代替が急速に進む一方で、革新力や創造性、課題解決能力を持つ人材の需要が高まると予測しています。同様に、2020年にアドビが実施した新卒採用に関する調査では、企業の採用担当者が最も重視するスキルとして「課題解決方法の発想力/着想力」が挙げられています。実社会のさまざまな課題解決のアイデアや手法には、正解のないものがたくさんあります。では、人間ならではの創造性を発揮して、一見無関係に見える点と点を結び、解決アイデアを発想し実装する力はどうしたら身に付けられるのでしょうか。

デジタルイノベーションマーケティング本部 本部長 小池 晴子は次のように述べます。「世界的なデザインコンサルティング会社、IDEO創業者のデビッド・ケリーは、創造性の発揮にはクリエイティブ・コンフィデンス、つまり自分が創造的であるという自信が不可欠であると指摘しています。クリエイティブ・コンフィデンスを持つためには、さまざまな試行錯誤を繰り返し、失敗も含め多くの体験を積み上げることが欠かせません。その点で、学校は次世代の子どもたちがプロジェクト学習などを通して、成長発達段階にあった成功体験も失敗体験も積み上げることができる重要な場所です。そして、その際にデジタルツールが『当たり

前の文房具』として使える環境であることが大切だとアドビは考えています。デジタルツールなら、『紙と鉛筆』に比べて試行錯誤を早いスピードで数多く繰り返すことができますし、実社会で使われているツールを使えば学校の中に閉じた活動ではなく、社会実装可能なクオリティのアウトプットを子どもたちが生み出すこともできるからです」

しかし日本の教育現場のICT導入は、これまで世界から大きく遅れをとっていたのが実情でした。その状況を一変させたのが、800万台の端末を全国の児童生徒に配付し、1人1台端末を実現するGIGAスクール構想です。アドビはAdobe Spark for Educationの無料提供を通じ、GIGAスクールでのクリエイティブな表現・制作活動の実現を積極的に支援しています。

リンク一つで世界に発信。それが新たな体験につながる

Adobe Sparkが備えるのは、「ポスターなどを制作する」「文章や写真、動画を組み合わせたWebページをつくる」「写真とナレーション、字幕を組み合わせたスライドショーを制作する」という3機能。誰でも簡単に美しいグラフィックコンテンツを制作できることがその第一の特長で、海外では、例えば個人経営のお店のSNS投稿ビジュアル制作やチラシ、メニューカード制作などにも広く活用されているほか、小学生から大学生まで世界中の子どもたちが学校の授業やプロジェクトで活用しています。

「教育におけるメリットは大きく二つ挙げられます。一つは豊富なテンプレートを活用して、初めて操作する小学生でも直感的に、美しいグラフィックをつくったり見やすいWebページをつくったりできることです。入り口のハードルは低く、つくる楽しさを感じながらアウトプット制作を進めることができます。もう一つが多様なコンテンツを一つのWebページにまとめ、リンク一つで共有できる点です。ある小学校での1年間のSDGs学習プロジェクトの中で先生から伺った話ですが、調べ学習を進めるにつれ『自分たちの力ではこんな大きな課題は解決できない』と子どもたちが感じ始めていたとのこと。しかしAdobe SparkでWebページにまとめたことで、12歳の自分たちにとって課題意識と解決アイデアを世界に発信することそのものが、最大の取り組みだと子どもたち自身が気づきを得たということです。このように、クラスや家族とデジタルで作品を共有できるだけでなく、突き詰めれば小学生でも世界に情報を発信できるということの意義は極めて大きいのです」(小池)

ICTに戸惑う教員の方々に向け、教育のレールを提供

アドビでは、2021年度は日本の教育ICT化の成否を分ける重要な年であることから、教育委員会や学校への積極的な働きかけに引き続き力を入れています。

「今年度は、実際に日本中の学校で、デジタルクリエイティブな活動が取り入れられていく過渡期です。先生方の授業づくりの一つの選択肢になればと考え、『SDGsクリエイティブアイデアコンテスト』を開催しています。これは朝日新聞SDGs Action!が主催し、アドビが共催するもので、GIGAスクールデバイスを使って子どもたちのSDGs達成に向けたクリエイティブなアイデアを、Spark Pageにまとめた作品を募集しています。GIGAスクールが一気に進んだことで、さまざまに苦勞されている現場の先生方に、少しでもお役に立てればという考えから4月から毎月1回、先生向けのオンラインセミナーを開催して、授業づくりや作品づくりのアイデアをお伝えしています。9月末の締め切りに日本中からたくさんの作品が届くことをとても楽しみにしています」(小池)



アドビが朝日新聞SDGs Action!と共催している『SDGsクリエイティブアイデアコンテスト』

全国の小中学校の児童生徒および教員のAdobe SparkアカウントはGIGAスクールデバイス800万台に対して、すでに4分の1に迫る勢いでお申し込みをいただいています。アドビでは今後ともAdobe Spark for Educationを始め、クリエイティブツールを教育現場で利用できる環境の実現に向けて努力を続け、次世代を担う子どもたちが学校で創造的問題解決能力を伸ばすことができるよう支援を続けていきたいと考えています。



アドビ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com